

清流の国ぎふ

# 2020 気良歌舞伎 勢揃い公演 大目

氣良歌舞伎保存会（郡上市）

郡上市明宝気良では、戦前から地歌舞伎が行われていましたが、役者や裏方の不足等により、昭和六十三年を最後に途絶えてしましました。しかし、平成十七年、当時二十代の若者たちが中心となって「地域の人達に笑顔になって欲しい」との想いから地歌舞伎を復活させました。

当保存会は、二十代から四十代の約三十名で構成され、毎年九月第三土曜日の氣良白山神社祭礼に合わせ、定期公演を行っています。この公演では、地元の小中学生の出演や親子での共演の機会も設けており、地歌舞伎の醍醐味でもある「演じる側も観る側も一緒に楽しむ」という心構えを大切にしています。

また、令和二年度には新型コロナウイルスの影響で中止になつた定期公演の代わりに、クラウドファンディングなどで資金を集め、インターネットや地元のケーブルテレビで映像配信を行い、新しい形で地歌舞伎を上演しました。これからも地歌舞伎を通じた地域資源の活用、地域の活性化に取り組んでいきます。



高雄歌舞伎保存会（郡上市）

「高雄歌舞伎」は当初、「市島歌舞伎」と呼ばれ、江戸時代中期には既に八幡町市島にある高雄神社の祭礼に際し、奉納歌舞伎が拝殿で催されていたとされます。当保存会は、昭和六年に結成された保存会組織を前身とし、平成九年の再編成を経て今に至ります。

現在、約六十名の会員が地歌舞伎に携わります。毎年十月第一土曜日、口明方小学校体育館を会場に高雄神社祭礼奉納公演を開催しています。地元の小学生で演じる「ちび子歌舞伎」や、中学生、高校生、青年で演じる歌舞伎も定着してきました。その他、郡上八幡ふるさとまつり特別公演、飛騨・美濃歌舞伎大会、三重県志摩市（郡上市友好都市）の安乗人形芝居との合同公演など、県内外の数多くの公演に出演していました。

また、十年以上に渡り「気良歌舞伎保存会」の振付指導や大道具設置などを行い、活動を支援しています。平成二十七年から平成二十九年には、「高雄・気良丸となり、地歌舞伎を盛り上げ」ています。青年歌舞伎公演も開催しました。今後も両保存会が一丸となり、地歌舞伎を盛り上げていきます。



## 新型コロナウイルス感染予防対策について

安心して参加いただくために、皆様のご協力をお願いします。

- ・発熱や風邪症状のある方は、参加をお控えください
- ・マスク着用の厳守（マスク非着用の方はご入場できません）
- ・手指消毒及び検温の実施（37.5°C以上の方はご入場できません）
- ・ソーシャルディスタンスの確保
- ・出演者への声援や歌唱、入り待ち、出待ちの禁止
- ・公演中のおひねり、大向こうの禁止

※「岐阜県感染警戒QRシステム」の登録をお願いします。

ご登録をいただきますと、感染者が発生した場合、同じ日に来訪された方にメールでお知らせいたします。

スタンプラリー  
実施中



開催期間中、1公演ご鑑賞ごとにスタンプ  
が1つとなります。スタンプ数に応じて  
素敵なグッズをプレゼント！  
※無観客開催の動画をご覧になった方は  
お申し出ください。

ぎふ清流文化プラザ  
YouTubeチャンネル

本公演の模様を収録し、後日配信します。



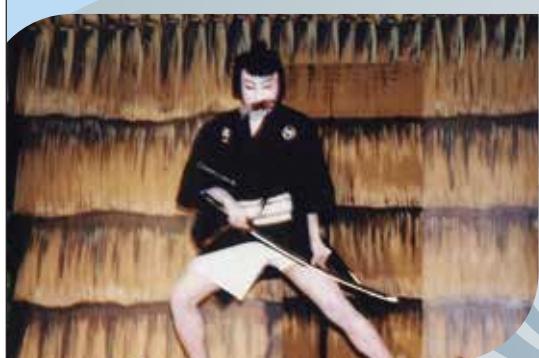
地歌舞伎とは

地歌舞伎とは、地元の素人役者たちによって演じられる、地域に根付いた歌舞伎です。江戸や上方で盛んであった歌舞伎は、地方を巡るプロの旅役者によって全国各地に広がり、それに憧れた地方の人々が神社の祭礼で演じたり、芝居小屋を造ったりと、自ら楽しむようになりました。現在、岐阜県には30を超える地歌舞伎保存団体が存在し、9軒の芝居小屋が各地に現存しています。岐阜県は全国有数の地歌舞伎が盛んな地であり、芝居小屋をはじめ、毎年各地で定期公演が開催されています。江戸時代から伝わる演目や振付が大切に受け継がれ、親しまれている岐阜県の地歌舞伎をご堪能ください。



主催／岐阜県・（公財）岐阜県教育文化財団  
協力／岐阜県地歌舞伎保存振興協議会  
令和3年度 文化庁 文芸芸術創造拠点形成事業  
ねんりんピック岐阜2021応援事業

◆終演16時30分（予定）演目・上演順は変更となる場合があります。  
15時20分（70分）  
ひちだんめ よいちべえうちかんぺいはらきり  
七段目 祇園一力茶屋の場  
かなでほんちゅうしんぐら  
六段目 与市兵衛内勘平腹切の場  
ごだんめ てっぽうわた  
五段目 鉄砲渡しの場・二つ玉の場  
ふただまば  
13時45分（70分）  
ぎおんいちりきぢゃや  
13時00分（25分）  
仮名手本忠臣蔵  
ごだんめ てっぽうわた  
13時20分（70分）  
かなでほんちゅうしんぐら  
七段目 高雄歌舞伎保存会（郡上市）  
13時00分（25分）  
高雄歌舞伎保存会（郡上市）



イヤホン同時解説  
演目の見どころやあらすじについて、  
分かりやすく解説します。

歌舞伎ソムリエ おくだ 健太郎氏



かなではんちゅうしんぐら

# 仮名手本忠臣蔵

## 五段目 鉄砲渡しの場・二つ玉の場 氣良歌舞伎保存会（郡上市）

殿中で塙治判官が刃傷に及んだ日、早野勘平は恋人のお軽と逢瀬をしており、大事の場所に居合わせることができませんでした。責任を感じた勘平が切腹するのをお軽が止め、山崎のお軽の実家で暮らすこととなりました。

獵師となつた勘平は狩りに出た先で、同僚である千崎弥五郎と行き合います。勘平は、金を届けると約束する代わりに、敵討ちに加わるための執り成しを頼みます。

一方、お軽の父親の与市兵衛は、娘の身売りを決め、五十両を懐に帰る途中、斧定九郎に殺されてしまします。折しも、定九郎の方へ猪が逃げてきて、そこへ火縄銃の銃声が鳴り響きます。火縄銃は勘平

が放ったものでした。手ごたえを感じた勘平は暗闇を探りますが、それは猪ではなく人でした。薬を探す勘平の手に、財布の感触。道ならぬこととは知りながら、仇討ちに加わりたい一心から、勘平は財布を握りしめ一目散に逃げ帰るのでした。

◆配役

早野勘平	澤奈央也
斧定九郎	坪井和也
千崎弥五郎	佐藤憲司
与市兵衛	高田慎太郎
猪	

また、歌舞伎ソムリエの呼称で、執筆や講演、YouTubeの発信など、幅広く活躍している。

## おくだ健太郎氏 イヤホン同時解説



## 六段目 与市兵衛内勘平腹切の場 氣良歌舞伎保存会（郡上市）

翌日、与市兵衛の家には一文字屋のお才と女街の源六がお軽を連れにやつてきました。そこへ戻つて来た勘平に、姑のおかやが事の次第を説明します。お才は縞柄の財布に五十両を入れて与市兵衛に渡したと告げますが、勘平はその柄を見て自分が殺したのが与市兵衛であつたと思い愕然とします。お軽が連れられて行つた後、獵師たちが与市兵衛の亡骸を運んで来ます。勘平の懷に縞柄の財布があることを知るおかやは勘平が与市兵衛を殺したと思い、勘平を責め立てるのでした。

そこにやつてきた千崎弥五郎と不破数右衛門は、「勘平が届けた金は亡君に不義不忠のあつた者の金だから使えない」と返しに来た旨を告げます。一縷の望みも失つた勘平は、顛末を打ち明け、刀を腹に突き刺すのでした。

しかし、千崎たちが与市兵衛の死骸を確かめると、致命傷は鉄砲傷ではなく刀傷だったことが判明します。勘平への疑いは晴れ、連判状への血判も許されることになりました。

## 七段目 祀園一力茶屋の場 気良歌舞伎保存会（郡上市）

高師直を討つて亡君塙治判官の恨みを晴らすことを決意した大星由良之助は、敵の目を欺くため祇園町に通い遊興にふけっています。そこに由良之助の嫡子大星力弥が、亡君の妻顔世御前からの密書を届けますが、師直に内通している斧九太夫が縁の下に潜んで様子を探っています。釣燈籠の明りを頼りに手紙を読む由良之助は、傍らの二階座敷からそれを盗み読む遊女お軽に気付き、身請けすると言います。

喜ぶお軽のところに兄の寺岡平右衛門が訪ねてきます。平右衛門は、由良之助のお軽を殺そうという真意を察し、手柄を立てて仇討ちの供に加えてもらおうと、お軽を殺そうとします。お軽も夫勘平の非業の死を平右衛門から聞かされ、死を覚悟します。裏手から様子をうかがっていた由良之助は、二人の本心を知ると、平右衛門に仇討ちに加わることを許します。

そしてお軽の手を添え、縁の下へ刀を突き刺します。由良之助は、亡君を裏切り敵に味方した九太夫をお軽に討たせることで、勘平の無念を晴らさせてやろうと考えたのです。

協力

振付指導	内ヶ島憲一
太夫	和田一石
三味線	豊澤順八
笛	細川竜弥
下座長唄	杵屋喜朱雀
鳴物	住田喜久次
附け	鳳川辰次
化粧・着付	小野恵理子
二村剛矢	伊藤明美
奥村将典	井料田寿子
太夫	和田一石
三味線	豊澤順八
笛	細川竜弥
下座長唄	杵屋喜朱雀
鳴物	住田喜久次
附け	鳳川辰次
化粧・着付	小野恵理子
二村剛矢	伊藤明美
奥村将典	井料田寿子
太夫	和田一石
三味線	豊澤順八
笛	細川竜弥
下座長唄	杵屋喜朱雀
鳴物	住田喜久次
附け	鳳川辰次
化粧・着付	小野恵理子
二村剛矢	伊藤明美
奥村将典	井料田寿子
太夫	和田一石
三味線	豊澤順八
笛	細川竜弥
下座長唄	杵屋喜朱雀
鳴物	住田喜久次
附け	鳳川辰次
化粧・着付	小野恵理子
二村剛矢	伊藤明美
奥村将典	井料田寿子
太夫	和田一石
三味線	豊澤順八
笛	細川竜弥
下座長唄	杵屋喜朱雀
鳴物	住田喜久次
附け	鳳川辰次
化粧・着付	小野恵理子
二村剛矢	伊藤明美
奥村将典	井料田寿子
太夫	和田一石
三味線	豊澤順八
笛	細川竜弥
下座長唄	杵屋喜朱雀
鳴物	住田喜久次
附け	鳳川辰次
化粧・着付	小野恵理子
二村剛矢	伊藤明美
奥村将典	井料田寿子
太夫	和田一石
三味線	豊澤順八
笛	細川竜弥
下座長唄	杵屋喜朱雀
鳴物	住田喜久次
附け	鳳川辰次
化粧・着付	小野恵理子
二村剛矢	伊藤明美
奥村将典	井料田寿子
太夫	和田一石
三味線	豊澤順八
笛	細川竜弥
下座長唄	杵屋喜朱雀
鳴物	住田喜久次
附け	鳳川辰次
化粧・着付	小野恵理子
二村剛矢	伊藤明美
奥村将典	井料田寿子
太夫	和田一石
三味線	豊澤順八
笛	細川竜弥
下座長唄	杵屋喜朱雀
鳴物	住田喜久次
附け	鳳川辰次
化粧・着付	小野恵理子
二村剛矢	伊藤明美
奥村将典	井料田寿子
太夫	和田一石
三味線	豊澤順八
笛	細川竜弥
下座長唄	杵屋喜朱雀
鳴物	住田喜久次
附け	鳳川辰次
化粧・着付	小野恵理子
二村剛矢	伊藤明美
奥村将典	井料田寿子
太夫	和田一石
三味線	豊澤順八
笛	細川竜弥
下座長唄	杵屋喜朱雀
鳴物	住田喜久次
附け	鳳川辰次
化粧・着付	小野恵理子
二村剛矢	伊藤明美
奥村将典	井料田寿子
太夫	和田一石
三味線	豊澤順八
笛	細川竜弥
下座長唄	杵屋喜朱雀
鳴物	住田喜久次
附け	鳳川辰次
化粧・着付	小野恵理子
二村剛矢	伊藤明美
奥村将典	井料田寿子
太夫	和田一石
三味線	豊澤順八
笛	細川竜弥
下座長唄	杵屋喜朱雀
鳴物	住田喜久次
附け	鳳川辰次
化粧・着付	小野恵理子
二村剛矢	伊藤明美
奥村将典	井料田寿子
太夫	和田一石
三味線	豊澤順八
笛	細川竜弥
下座長唄	杵屋喜朱雀
鳴物	住田喜久次
附け	鳳川辰次
化粧・着付	小野恵理子
二村剛矢	伊藤明美
奥村将典	井料田寿子
太夫	和田一石
三味線	豊澤順八
笛	細川竜弥
下座長唄	杵屋喜朱雀
鳴物	住田喜久次
附け	鳳川辰次
化粧・着付	小野恵理子
二村剛矢	伊藤明美
奥村将典	井料田寿子
太夫	和田一石
三味線	豊澤順八
笛	細川竜弥
下座長唄	杵屋喜朱雀
鳴物	住田喜久次
附け	鳳川辰次
化粧・着付	小野恵理子
二村剛矢	伊藤明美
奥村将典	井料田寿子
太夫	和田一石
三味線	豊澤順八
笛	細川竜弥
下座長唄	杵屋喜朱雀
鳴物	住田喜久次
附け	鳳川辰次
化粧・着付	小野恵理子
二村剛矢	伊藤明美
奥村将典	井料田寿子
太夫	和田一石
三味線	豊澤順八
笛	細川竜弥
下座長唄	杵屋喜朱雀
鳴物	住田喜久次
附け	鳳川辰次
化粧・着付	小野恵理子
二村剛矢	伊藤明美
奥村将典	井料田寿子
太夫	和田一石
三味線	豊澤順八
笛	細川竜弥
下座長唄	杵屋喜朱雀
鳴物	住田喜久次
附け	鳳川辰次
化粧・着付	小野恵理子
二村剛矢	伊藤明美
奥村将典	井料田寿子
太夫	和田一石
三味線	豊澤順八
笛	細川竜弥
下座長唄	杵屋喜朱雀
鳴物	住田喜久次
附け	鳳川辰次
化粧・着付	小野恵理子
二村剛矢	伊藤明美
奥村将典	井料田寿子
太夫	和田一石
三味線	豊澤順八
笛	細川竜弥
下座長唄	杵屋喜朱雀
鳴物	住田喜久次
附け	鳳川辰次
化粧・着付	小野恵理子
二村剛矢	伊藤明美
奥村将典	井料田寿子
太夫	和田一石
三味線	豊澤順八
笛	細川竜弥
下座長唄	杵屋喜朱雀
鳴物	住田喜久次
附け	鳳川辰次
化粧・着付	小野恵理子
二村剛矢	伊藤明美
奥村将典	井料田寿子
太夫	和田一石
三味線	豊澤順八
笛	細川竜弥
下座長唄	杵屋喜朱雀
鳴物	住田喜久次
附け	鳳川辰次
化粧・着付	小野恵理子
二村剛矢	伊藤明美
奥村将典	井料田寿子
太夫	和田一石
三味線	豊澤順八
笛	細川竜弥
下座長唄	杵屋喜朱雀
鳴物	住田喜久次
附け	鳳川辰次
化粧・着付	小野恵理子
二村剛矢	伊藤明美
奥村将典	井料田寿子
太夫	和田一石
三味線	豊澤順八
笛	細川竜弥
下座長唄	杵屋喜朱雀
鳴物	住田喜久次
附け	鳳川辰次
化粧・着付	小野恵理子
二村剛矢	伊藤明美
奥村将典	井料田寿子
太夫	和田一石
三味線	豊澤順八
笛	細川竜弥
下座長唄	杵屋喜朱雀
鳴物	住田喜久次
附け	鳳川辰次
化粧・着付	小野恵理子
二村剛矢	伊藤明美
奥村将典	井料田寿子
太夫	和田一石
三味線	豊澤順八
笛	細川竜弥
下座長唄	杵屋喜朱雀
鳴物	住田喜久次
附け	鳳川辰次
化粧・着付	小野恵理子
二村剛矢	伊藤明美
奥村将典	井料田寿子
太夫	和田一石
三味線	豊澤順八
笛	細川竜弥
下座長唄	杵屋喜朱雀
鳴物	住田喜久次
附け	鳳川辰次
化粧・着付	小野恵理子
二村剛矢	伊藤明美
奥村将典	井料田寿子
太夫	和田一石
三味線	豊澤順八
笛	細川竜弥
下座長唄	杵屋喜朱雀
鳴物	住田喜久次
附け	鳳川辰次
化粧・着付	小野恵理子
二村剛矢	伊藤明美
奥村将典	井料田寿子
太夫	和田一石
三味線	豊澤順八